

# 日语名诗100首

刘德润 王广生 译

提取10首文本

商务印书馆

求婚歌

こ籠もよ、み籠もち  
 ふくしもよ、みぶくしもち  
 この岡に、菜摘ます児  
 家告らな 名告らさね  
 そらみつ 大和の国は  
 おしなべて 我こそ居れ  
 しきなべて 我こそ座せ  
 我こそば 告らめ  
 家をも 名をも

ゆうりやくてんのう まんようしゅう まき  
 ——雄略天皇『万葉集』卷1-001

籠もまあ、よい籠を持ち、ふくしもまあ、よいふくしを持って、この岡で菜を摘  
 んでおられる娘さん。あなたのお家はどこか、おっしゃいなさい。お名前は  
 何と言うのか、おっしゃいなさい。この大和の国は、この私が治めている。全部  
 を私が治めているのだよ。まず、私から名乗ろう、私の家も名前も。

求婚歌

竹篮哟，提在手，  
 木镢哟，何精巧。  
 淑女登山冈，早春挖菜苗。  
 芳名与家世，容我来请教。  
 大和之国，吾位最高。  
 国土泱泱，皆属我朝。  
 吾名吾家，告汝知晓。

——雄略天皇《万叶集》卷1-001

三日月は人の眉

ふりさけて 三日月見れば 一目見し  
人の眉引 思ほゆるかも

——大伴家持『万葉集』卷6-994

振り仰いで三日月を見ると、ただ一目見た美人の眉のさまが思い出されるなあ。

新月如画眉

仰望春空处，皎皎新月凉。

芳颜曾一睹，得忆画眉长。

——大伴家持《万叶集》卷6-994

山部赤人

### 住の江の岸に寄る波

すみ え きし よ なみ  
住の江の 岸に寄る波 よるぎへや  
ゆめ かよ ぢ ひとめ  
夢の通ひ路 人目よくらむ

ふじわらのとしゆき おぐらひやくにんいっしゅ  
——藤原敏行『小倉百人一首』018

すみ え うみべ よ なみ よる ひと あ かよ い ゆめ 夢  
住の江の海辺にうち寄せる波のように、夜、あの人に逢いに通って行く夢を見  
ようともしも、ひとめ よる ゆめ なか こい かよ みち わたし  
ようとしても、人目のない夜なのに、その夢の中の恋の通い道で、私はどうし  
てひとめ さ ゆめ あ  
て人目を避けているのだろうか、夢でも逢えない。

山部赤人

### 浪涌住江岸

浪涌住江岸，更深夜静时。

相逢唯梦里，犹恐被人知。

——藤原敏行《小倉百人一首》018

朧月夜の花の下臥し

やど か ひと ひと なさ  
宿貸さぬ 人のつらさを 情けにて  
おぼろづくよ はな した ぶ  
朧 月夜の 花の下臥し

——太田垣蓮月『海人の刈藻』春部

ひと よ やど わたし か ひと ひと わ じょう きやく なさ う せ  
一夜の宿を私に貸してくれなかった人の無情さが、逆に情けとして受け取  
った。野宿した私は朧月夜の桜花の下で寝る。

月夜卧花荫

借宿尝闭门，无情作有情。

朦胧春月夜，花荫卧到明。

——太田垣蓮月《苍海割藻》春

芭蕉俳句三句

(1)

ふるいけ かはづと こ みづ おと  
古池や 蛙飛び込む 水の音

——松尾芭蕉『春の日』

ふだん、<sup>き</sup>気にもとめぬ古池から、<sup>ふるいけ</sup>蛙が飛び込んだそのこ小さな水音が聞こえてきた。

(2)

わかば おんめ しづく  
若葉して 御目の雫 ぬぐはばや

——松尾芭蕉『笈の小文』

<sup>みずみず</sup>この瑞々しい若葉で、<sup>わかば</sup>鑑真和尚像の目の涙の雫を拭って差し上げたいものである。

(3)

しづか いは い せみ こゑ  
閑さや 岩にしみ入る 蟬の声

——松尾芭蕉『奥の細道』

<sup>ゆうがた</sup>夕方かんじやくの閑寂さ。鳴き止みつつあるな蟬やの声は。まるで岩にしみ入るかのようだ。

芭蕉俳句选读三句

(1)

古池苍茫，  
青蛙入水一声响。

——松尾芭蕉《春之日》

(2)

愿摘新叶一枚，  
轻拭大师思乡泪。

——松尾芭蕉《笈之小文》

(3)

蝉鸣渐停更幽寂，  
声声如渗岩石里。

——松尾芭蕉《奥州小道》

山林に自由存す

さんりん さん  
山林に自由存す  
われ此の句を吟じて血のわくを覚ゆ  
あ あ  
嗚呼山林に自由存す  
いかなればわれ山林をみすてし

あくがれて虚栄の途にのぼりしより  
十年の月日塵のうちに過ぎぬ  
ふりさけ見れば自由の風は  
すでに雲山千里の外にある心地す

まなじり のぞ  
眦を決して天外を望めば  
をちかたの高峯の雪の朝日影  
嗚呼山林に自由存す  
われ此の句を吟じて血のわくを覚ゆ

なつかしき わが故郷は何処ぞや  
かしこ  
彼処に われは  
山林の児なりき

自在在山林

自在在山林！  
热血沸腾我高吟。  
啊，自在在山林！  
为何当年弃山林？！

一朝踏入虚荣路，  
十年岁月归泥尘。  
抬头遥望自由乡，  
云山千里何处寻！

极目远眺云天外，  
远山雪峰朝日影。  
啊！自在在山林，  
热血沸腾我高吟。

久别故乡今何在？  
我本孩童生山林。  
回望千里江山路，

かへり せんりこうざん  
顧みれば 千里江山

自由の郷は  
うんてい ぼつ  
雲底に 没せんとす

自由之郷云中隠。



竹

光る地面に竹が生え、  
青竹あをだけが生え、  
地下には竹の根が生え、  
根がしだいにほそらみ、  
根の先よりせんもう纖毛が生え、  
かすかにけぶる纖毛が生え、  
かすかにふるへ。

かたき地面に竹が生え、  
地上にすどく竹が生え、  
まつしぐらに竹が生え、  
凍れるふしぶし節節りんと、  
青空のもとに竹が生え、  
竹、竹、竹が生え。

竹

光耀大地，生有青竹  
亭亭青竹  
地下生根  
根伸成须  
须生纤毛  
纤毛颤颤，如烟如雾  
跃动生命之舞

坚冷大地，生有青竹  
用力伸展，亭亭青竹  
节节猛进，亭亭青竹  
冻竹高洁，凛凛威武  
苍空之下，亭亭青竹  
用力生长吧，青竹、青竹、青竹！

蜂と神さま

蜂はお花のなかに、  
お花はお庭のなかに、  
お庭は土塀のなかに、  
土塀は町のなかに、  
町は日本のなかに、  
日本は世界のなかに、  
世界は神さまのなかに。

そうして、そうして、神さまは、  
小ちやな蜂の中に。

蜜蜂与神明

蜜蜂在花儿里  
花儿在院子里  
院子在泥墙里  
泥墙在大街上  
大街在日本国  
日本在世界里  
世界在神灵那里

那么，那么  
神就在小小的蜜蜂那里

われは草なり

われは草なり 伸びんとす  
伸びられるとき 伸びんとす  
伸びられぬ日は 伸びぬなり  
伸びられる日は 伸びるなり  
われは草なり 緑なり  
全身すべて 緑なり

毎年かはらず 緑なり  
緑のおのれに あきぬなり  
われは草なり 緑なり  
緑の深きを 願ふなり

ああ 生きる日の 美しき  
ああ 生きる日の 楽しさよ  
われは草なり 生きんとす  
草のいのちを 生きんとす

我是一棵小草

我是一棵小草 努力伸展  
可以伸展时 就努力伸展  
无法伸展的日子 就停下脚步  
可以伸展的日子 努力、不停息

我是一棵小草 变绿  
全身上下 变绿  
每年都是如此 变绿  
在绿的内部 生生不息  
我是一棵小草 变绿  
在绿的深处 祈祷

啊 活着的日子 美好  
啊 活着的日子 快乐  
我是一棵小草 活着、努力  
作为草的生命 活着、努力

夢みたものは……

夢みたものは ひとつの幸福  
ねがったものは ひとつの愛  
山なみのあちらにも しづかな村がある  
明るい日曜日の 青い空がある

日傘をさした 田舎の娘らが  
着かざつて 唄をうたつてゐる  
大きなまらい輪をかいて  
田舎の娘らが 踊ををどつてゐる

告げて うたつてゐるのは  
青い翼の一羽の小鳥  
低い枝で うたつてゐる

夢みたものは ひとつの愛  
ねがったものは ひとつの幸福  
それらはすべてここに ある と

我梦见的

我梦见的 只是幸福  
我祈求的 只是爱恋  
在群山之间 有座安静的村落  
明媚的休息日 湛蓝的天

女孩子们 打着遮阳伞  
漂亮的衣着 歌唱在田间  
农村的姑娘们 在跳舞  
她们手挽手，围成圆圈

在矮矮的枝头 歌唱  
小小的青鸟 向谁告白

我梦见的 只是爱恋  
我祈求的 只是幸福  
而这一切 都在梦里面